第58回宮城県母親大会 in 大河原
日にち▶2018年9月2日（日）
場　所▶大河原町立大河原小学校
時　間▶ 9:30～12:00分科会、13:00～16:00全体会（講演）
参加券 800円
講演 斎藤　貴男氏（ジャーナリスト）
連絡先／宮城県母親大会実行委員会
TEL:022-219-2693（鎌田）

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所　宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801　田村ビル５Ｆ
TEL　022－265－２６０１
FAX　022－263－８２６６
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人　坂　田　匠
1日·15日　月2回発行　1部 50円

過労死・自殺防止学習会

労働を人を傷つける凶器にしてはいけない

坂総合病院　社会福祉士　**吉田　真理**

６月26日、仙台市シルバーセンターにて、過労死１１０番30年仙台開催60回記念「過労死・自殺防止学習会」が開催されました。

初めに、過労死ネット宮城共同代表／宮城県働く人の健康と環境改善をすすめる会事務局長、仙台錦町診療所・産業医学健診センター長の広瀬俊雄医師より「宮城県における過労死の実情・取り組み・課題」についてご講演をいただきました。

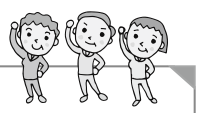
過労死１１０番が初めて開催された１９８８年当時は、死亡と労働の関係に触れられることはなかった時代で、これを問題視し相談活動の普及と事例解析が開始されました。積み上げられた科学的根拠から、夜勤や過重労働によって起こる高血圧が過労死の主因という結果を導き出し、健康を守る活動が展開されたことを知ることができました。

講演を聞く参加者

また、夜勤や過重労働は身体的な犠牲に留まらないことも話されました。家族団欒や趣味、近所付き合いなどの時間が持てず、家族関係の破綻や社会活動の低下にもつながり、生活・人生の犠牲をも被ります。本人と本人を支える人たちの両者をサポートできる対策の重要性を学ぶことができました。

次に、過労死弁護団全国連絡会議幹事長の川人博弁護士より「過労死の現状と予防の取り組み」についてご講演をいただきました。長時間労働による過労や雇用不安によるストレスが広がり、精神疾患と自殺が激増している中、勤務時間が原因の死亡件数と労災認定の件数に大きな乖離があるとのことでした。そして、若者の過労死や公共性が高い職場の健康の問題など働く人の命と健康が次々と奪われている現状や、国会で議論されてきた働き方改革の中味と手続きが不十分であるとの話を聞き、憤りを感じました。一体誰のための改革なのでしょうか。過酷な状況に置かれている本人や家族が一人で会社へ立ち向かうことは困難です。専門家や外の力を借りながら被害実態を把握し、それを予防と救済に活用することが緊急の課題であり、さらには法令改正に繋げていく必要性を理解しました。

労働は会社の存続のために労働者へ強いられるものではなく、例えばやりがいを感じたり、会社の同僚とのやりとりが人としての成長に繋がったり、生活を豊かにするものの一つであり、決して人を傷つける凶器になってはいけないと思います。今後、当事者を守る存在となること、そして労働と生活の関係に視点を持ち支援していきたいと思います。



初めての「健康フェスタ」に 116名が参加

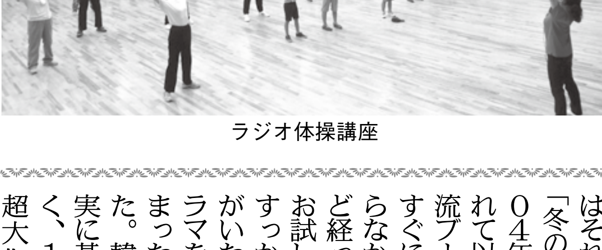
松島医療生活協同組合　事務　**高橋　康則**

７月14日、30度を超えた暑い日、松島町文化観光交流館を会場に「健康づくりフェスタ」が開催されました。これは「地域まるごと健康づくり」の実践と、毎年行っている「健康チャレンジ」の参加者を増やす目的で今年初めて開催。総勢１１６名の方が参加し、心地よい汗をかきました。

全体企画の「正しいラジオ体操講座」では、動きの一つ一つについて効果のある動かし方などをわかりやすく説明していただきました。休憩を挟んでの分科会では、①あいうべ体操②ヨガ③ころばん体操④太極拳体験⑤笑いヨガの5つに分かれ、それぞれ楽しく体を動かしました。

参加者の感想として、「初めてだが楽しかった。災害もあり、改めて口腔衛生の大切さを実感。あいうべ体操がフレイル予防にもいいとわかった」、「初めてヨガに参加。呼吸法をまじめに行っていたら最後は寝てしまったけどぜひ家でも実践してみたい」、「80過ぎの高齢で激しい運動は出来ないが、ころばん体操なら家でもできるかな」、「一度太極拳をやってみたかったのでいい経験になりました。今度は講師がやっている太極拳教室に参加してみます」、「笑いヨガを色々なパターンで行い楽しかったです。また来年も来てほしい」など、どの分科会も大変好評でした。

参加した皆さんがこのフェスタをきっかけとして、9月から始まる「健康チャレンジ」を行い、健康づくりの習慣化に繋げていくことを期待しています。


ラジオ体操講座

もうすぐ宮城で看護介護活動研究交流集会

長町病院　副事務長　**阿部　一彦**
（現地実行委員会事務局長）

第14回全日本民医連看護介護活動研究交流集会in宮城が9月30日（日）から10月1日（月）の２日間、仙台国際センターで開催されます。

この間、交流集会の成功に向けて1年前より現地実行委員会や事務局会議を立ち上げ、受入れの準備を進めてきました。また、全日本民医連は、運営委員会や事務局会議を仙台や東京で行い、プログラムの内容検討や進め方、口演・ポスターの演題決定を行なってきました。

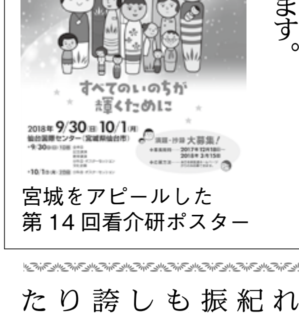
テーマの柱は9つあります。①人権を守り、ともにたたかう看護・介護の実践、②無差別平等の地域包括ケアの実践、③安全・安心、質向上を目指す取り組み、④患者・利用者の立場に立ったチーム医療の実践、⑤救急・災害時の看護・介護、⑥健康づくりを支援するためのまちづくりとヘルスプロモーションの取り組み、⑦職場づくりと管理運営、⑧看護職・介護職の確保と育成、介護職能としての組織課の課題、⑨民医連のめざす看護とその基本となるものの活用と普及。この柱に基づいて２４７の口演や２０8のポスターセッションが行われます。宮城からは22演題が採用されました。

記念講演は、川嶋みどり氏（日本赤十字看護大学名誉教授）より「戦争と看護」（仮）の演題で講演をいただく予定となっています。教育講演は、９つの柱に関連して4人より講演いただく予定で、宮城ではそのうち、2つの講演を担当することになります。

開催県連としてオープニング企画や文化企画、おみやげの企画を準備しており、これまで6回の現地実行委員会の開催で内容を詰めてきておりますので、当日の企画を楽しみにお待ちください。

また、東日本大震災「復興の軌跡」として、被災3県共同企画で震災・復興展示会場を設置して、震災時に全国よりいただいた寄せ書きや震災時に発行したニュースや冊子等、復興の現状と課題の資料展示や、各県連5分の映像上映をする予定です。

今回の交流集会は１１００名規模の開催となり、宮城は１３０名の参加期待数です。看護師・介護福祉士以外の職種の方の参加も期待しながら集会成功に向けて努力していきたいと思います。同時に要員も35名が必要となりますので、各事業所のご協力をお願いいたします。


第14回 全日本民医連看護介護活動研究交流集会
守りぬこう憲法
つなげよう
民医連のめざす看護・介護
すべてのいのちが輝くために
2018年 9/30(日) 10/1(月)
仙台国際センター（宮城県仙台市）
演題・体験 大募集!
宮城をアピールした
第14回看介研ポスター

健康手帳

「歴史は苦手だ」ずっとそう思っていた。自信をもって言えるのは、「１１９２（いいくに）つくろう鎌倉幕府」くらいだ。それでも学生時代は、縄文時代、弥生時代……と覚えていたはずだが、今はそれすら怪しい。▼「冬のソナタ」が２００４年に国内で放映されて以降、我が国に韓流ブームが到来した。すぐにはその波には乗らなかったが、３年ほど経って「冬ソナ」をお試しで観たところ、すっかりはまった自分がいた。数々の韓流ドラマを観たが、特にはまったのが時代劇だった。韓国の時代劇は史実に基づいたものが多く、１００話を超える超大作がたくさんある。歴史は苦手な私が、５００年以上続いた李氏朝鮮王朝だけはちょっと詳しい（かもしれない）。▼そんな中、最近は自国の歴史にも興味を持つようになった。昨年の「おんな城主 直虎」に始まり、ＮＨＫの大河ドラマで勉強しようと思っている。直虎の子孫である井伊直弼も登場した今年の「西郷どん！」、ドラマが終わるころには明治維新に詳しくなれるだろうか?▼半世紀を過ぎたわが人生を振り返ると、今この時も歴史を刻んでいるとしみじみ思う。世界に誇れる平和憲法を守り、戦争の歴史は刻みたくないものだ。

原爆パネル展

「原爆と人間展」

核兵器は絶対に使ってはいけない

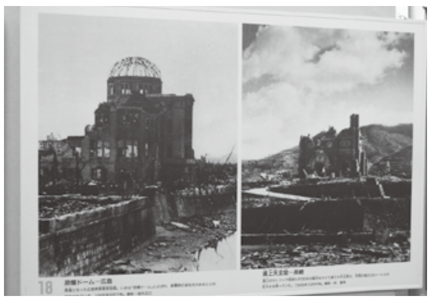
7月7日~8日、仙台福祉プラザで原爆パネル展が開催されました。

　140点もの、写真や被爆者の描いた絵が展示され、子ども連れの家族や、たくさんの見学者がきていました。

　2013年に撮影された、被爆者の証言ビデオを見ました。広島で被爆した方。「自分は救助に行った。爆心地に近づくと、裸で火傷の死体が増えた。4日位経つと、人間という感じがなくなり、平気で板を重ねて焼いていった。核兵器は世の中にあってはならない」。

被爆者の絵を見る見学者

　長崎で被爆した方。「学徒動員で、飛行機を作っていた。広島に新型爆弾が落ち、次は長崎と噂されていた。長崎に原爆が落ちたとき、こんなにむごい爆弾はないと思った。人間は平等に生まれた。生まれてきてよかったと思える世界にしてほしい」。他の証言。「戦争があったから、憲法9条ができた。そのおかげで60年以上戦争は起こらなかった。二度と戦争は起こしてはいけない」。「核兵器の威力を知らない人に、あの惨状を見せたい。核兵器は絶対使ってはいけない。兵隊ではなく、市民が大勢死んだ。被爆者は、なぜこんなに苦しまなければいけないのか。憲法9条を変えてはいけない。戦争は二度と起こしてはいけない」。


原爆投下後の広島と長崎

　会場にいた被爆者の方が、「この証言をしてくれた方のほとんどは、もう亡くなったんですよ」と教えてくれました。写真でも、火傷で火膨れした人や、炭化した体、瓦礫に立ち尽くす人、死んだ赤ん坊を背負った少年など生々しい原爆の被害を見ることが出来ました。被爆者の描いた絵も、多数展示されており、戦争とは、人権を根こそぎ奪っていくものと感じました。人間が、人間として扱われないのが戦争であり、原爆です。

第一回の原水爆禁止世界大会

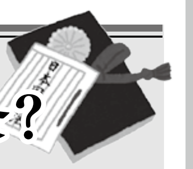
　証言者の一人の方は「たった1発の爆弾で、20万人以上が死んだ」と話していました。20万の人生がそこで終わってしまったのです。

　原爆の悲惨さを多くの人に伝えましょう。

（記事：田中　千枝）

連載(72)

私の好きな憲法は何条？



坂総合病院
経営企画室　事務
堀　明子

　憲法は今まで深く読み入ったことはありませんが、前文にある「平和のうちに生存する権利を有する」（平和的生存権）が心にあります。

　単純に平和であるならば、笑顔がある毎日を過ごすことができるではないかと感じています。

　普段からあまり憲法を意識することなく、突然の原稿依頼でどうしようとあわてていたところに、すてきな笑顔が目に飛び込んできました。

　ひとつは、テレビで紹介していた「認知症カフェ」。注文をとった内容を忘れてしまい、もう一度照れながら注文をききにいくお母さん（おばあちゃん）とお客さん達のいいんだよーというにこにこと優しく笑った顔。

　それから、「美しかった田んぼがパネルで埋め尽くされるのは複雑な気持ちですが、住民の生活を再建し、土地を次の世代につなげたい」と、原発事故で汚染された元農地に大規模太陽光発電を設置する事業を住民主導で立ち上げたというご夫妻。

　みなさん、それぞれ大変なご苦労があるのだろうけれど、その前向きな姿にこころがほっこりしました。

　そして、南相馬に住んでいる母の念願だった畑がこの度やっと復活し、笑顔が戻ってきました。原発事故後、数年たってやっと除染してもらいましたが、まだ線量の高いところが多く、家の中にこもりがちでした。それでも、好きな畑をまたやりたいと近所のみんなで畑の土を新しくしたり、検査したりを経ていろんなものを植え始めたようです。

　こうして、外に出て「人とのつながり」をもつことや笑顔が多いということは、健康に身体にとても大切なのだとか。

　先にかいた前文の前には「ひとしく恐怖と欠乏から免かれ」ということばがあります。

　原発にもミサイルにも米軍基地にも、そして先日の痛ましいニュースにもあった虐待などによって不安をおぼえず、尊いいのちが奪われないようにいまもこれからも安心して「笑顔で」くらしていけるようにとただただ願うばかりです。

ピースウェーブ2018 in みやぎ

ヒバクシャ国際署名100万筆を日本政府に届けよう

　7月7日10時から、仙台市元鍛治丁公園でピースウェーブが開催されました。「ヒバクシャ国際署名を広めよう！日本政府は核兵器禁止条約を批准せよ」と全国各地で行われました。

　50人ほどの集会では、宮城県原爆被害者の会事務局長の木村緋紗子さんから「核兵器禁止条約が国連で採択されて1周年。ヒバクシャ国際署名100万筆の目標を達成するために、みなさんとともにがんばりましょう」と訴えがありました。

　被爆2世の林俊江さんは「今年、広島の世界大会に参加します」と話されました。

　リレートークでは、宮城一般みやぎ生協支部の野口淑恵さんは「生協では、広島の学習企画を独自に行っている。原水爆禁止世界大会には毎年1名は参加している。平和であることが基本」と話されました。新婦人宮城県本部の三田福子さんは「ピースウエーブは、核兵器の危険から女性や子どもを守る長年に渡る運動。新婦人からも毎年会員が原水爆禁止世界大会に参加している」。

ピースウエーブの集会

　宮城民医連の佐藤悠耕さんは「昨年の長崎原水爆禁止世界大会に参加。核兵器禁止条約が国連で採択されたのに、日本政府は目をそむけている。まわりの職員に署名を広げたい」と訴えました。

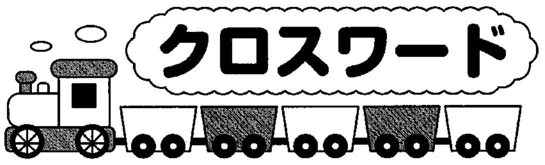
　仙台市内を「核兵器を廃絶させましょう」「ノーモア・ヒロシマ。ノーモア・ナガサキ」とアピール行進をしました。

　世界で唯一の被爆国でありながら、核兵器禁止条約を批准しない日本政府に対し、全国で300以上の地方議会が批准を求める意見書を上げています。ヒバクシャ国際署名の取り組みを強めましょう。

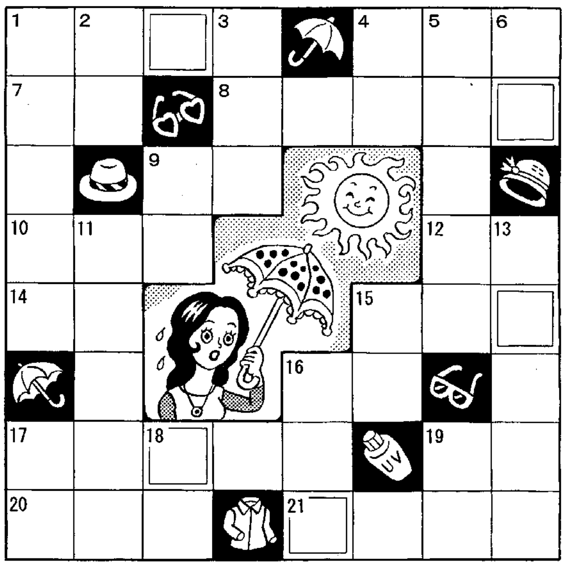
（記事：田中　千枝）

Peace Wave 2018 in Miyagi
雨の中アピール行進

クロスワード



《解き方》イラストをヒントにして、二重ワクの５文字をうまく並べてできる言葉は？（作・モロズミ勝）



ヨコのカギ
1 子どもに人気の昆虫です
4 「桃太郎」という品種も
7 夏の浜辺。太陽と熱い……
8 高校球児の聖地
9 地下茎はレンコンです
10 真田幸村には10人いました
12 「羊歯」って読めますか?
14 残念ながら最下位です
15 佐渡島観光の定番。……舟
16 今年は8月7日から
17 「その他いろいろ」です
19 金がありません。……なし
20 慶長から万延まで10種類
21 世界遺産・厳島神社のある宮島のお土産といえば

タテのカギ
1 英語ではリングフィンガー
2 人を陥れる策略のこと
3 メキシコを代表する料理
4 取れば取るほど増えます
5 平幕ともいわれます
6 容積の単位です
9 ……げた、……詰め、……渡し
11 買い言葉で応酬します
13 京都の五山送り火は「……焼き」ともいわれます
15 華厳、袋田、那智といえば
16 大野、桜井、相葉、二宮、松本さんがメンバーです
17 環境保全の……マーク
18 ……載一遇、……客万来
19 昨年度の収穫量ベスト3は山梨県、福島県、長野県

　クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。**余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただく場合があります。**応募資格＝臨時・パート含む県連職員。締切8月31日当日消印有効。発表9月15日号。**6月15日号答え①左奥・上がってくる生徒が1人足りない②猫のしっぽ③中央奥・木の高さ④屋上の柵の高さ⑤右から2人目の子・帽子の横線の太さ⑥右端の人・左袖の長さ⑦右端の花が1輪少ない・**応募総数15件。当選者＝**坂井めぐみ**／坂総合病院。**中島康子**／ケアステーションながまち。**髙橋光**／長町病院。**大沼晴与**／田子のまち。**佐藤正子**／坂総合クリニック。（敬称省略）